昭和46年7月1日発行（毎月1回1日発行）第20巻・第9号　昭和29年6月23日　日本国有鉄道特別扱承認雑誌第2636号　昭和30年3月24日第三種郵便物認可

航空ファン

THE KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR
ノースアメリカン
P-51D



☆特集☆

'71 7

ロールアウトしたXT-2試作1号機







7ページからこのページは，去る4月28日，三菱重工小牧工場をロールアウトしたXT-2超音速高等練習機の試作1号機。ただちに地上滑走試験に入って，8月末までに初飛行の予定である。日の丸と尾翼の耐熱塗装のほかは全面無塗装のジュラルミン肌。





三沢基地のF-4D ファントムII



三沢基地のファントム部隊は，すべて海外に移動したが，このページと前ページの２機のF-4Dは，整備のために同基地に立ち寄ったもの。韓国の群山基地の第３戦術戦闘連隊の所属機である。



訓練のために三沢基地を訪れた航空自衛隊機。上は千歳の第201飛行隊のF-104J，下は八戸の対地協力部隊第81FS隊のF-86F。4月上旬の撮影。




★BIGな男のBIGなやつ★
REVELL
1/32
SERIES
"双胴の悪魔"
fork-tailed devil
LOCKHEED P-38J LIGHTNING
ロッキード　P-38J　ライトニング
☆第5空軍475戦闘グループ433戦闘中隊機の色刷り図面入り。
☆第5空軍475戦闘グループ433戦闘中隊、第9空軍370戦闘グループ第485戦闘中隊と撃墜王リチャード・ボング少佐機の3種のデカール入り。
☆全長36cm　全幅49cm　☆H-280　¥1,000
レベル総代理店　郡是産業(株)物資部
Revell
東京都中央区日本橋江戸橋2－6　TEL 272－4771(代)

マーチン P4M-1Q マーケイター

1955年頃，第1艦隊偵察飛行隊（VQ-1）の装備機として岩国基地に駐留していたマーチン P4M-1Q マーケイター。-1Q は P4M-1 の ECM 装備機。

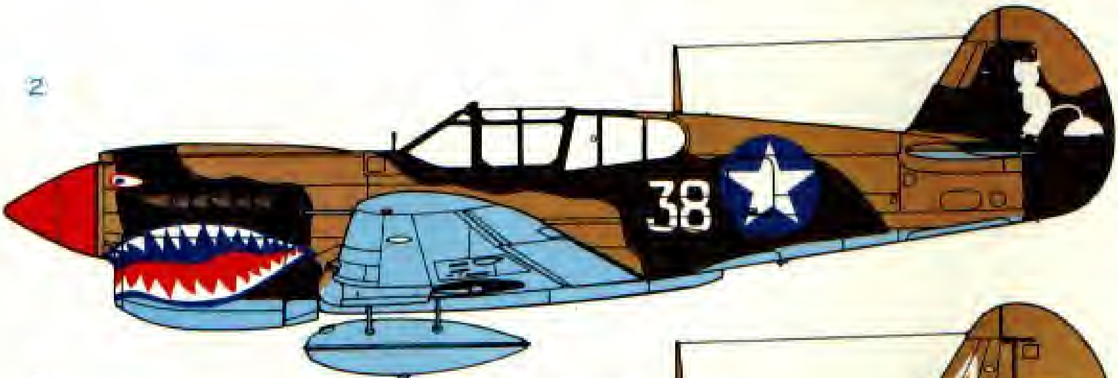


PLANE FIGURE OF 4 AIRCRAFT
P-40E, 16TH F. SQN., 51ST F.G. 10TH A.F.
P-40K, 25TH OR 26TH SQN., 51ST F.G. 10TH A.F.
KITYHAWK MK. Ia No.1 OTU. RAAF.

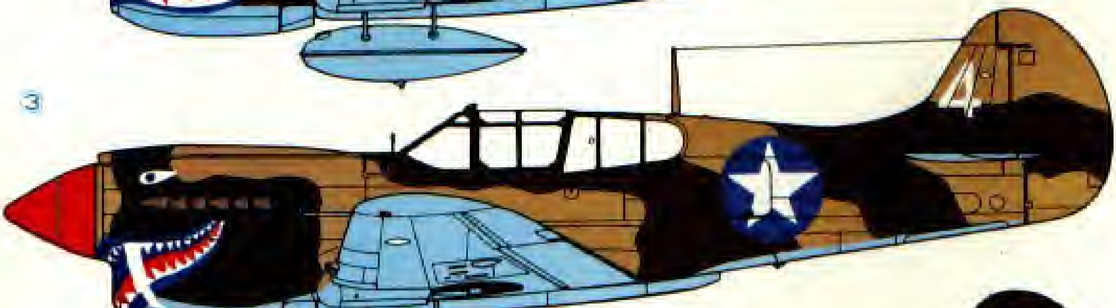
図4の平面塗装図。
P-40E。第10空軍第51戦闘大隊第16戦闘中隊所属機。
P-40K。第10空軍第51戦闘大隊第25か26戦闘中隊機。
キテイホークMK.Ia。オーストラリア空軍第1実用飛行訓練中隊機



2



3



④



カーチスP-40Eウォーホーク/キテイホーク

CURTISS P-40E WARHAWK/KITTYHAWK

第2次大戦中，連合国でもっとも多く使用された戦闘機のひとつであるP-40は，1938年10月に初飛行，最終生産型のP-40Nのほか，数多くの試作型もつくられて，合計13,738機が生産された。シェーンノート将軍の義勇飛行隊フライング・タイガーとしても有名である。

☆キット紹介☆

レベルP-40E 1/32スケールのキットは，現在フライング・タイガーのデカールつきのものと，アリューシャン・タイガーのデカールの2種が発売されていて，前者のキットは中国空軍のマークと米軍のフライング・タイガーの合計3種のデカールが付属，後者のキットはカナダ空軍のデカールがついている。

キットは両者とも同じ構成で，オール可動式となっており，実物同ようのエンジンやコクピットを内蔵，外観のリベットや筋彫りもデリケートな表現で精巧そのもの，P-40Eの特徴をミゴトに表現した素晴しいキットである。

☆塗装について☆

図①は図④の平面塗装で，機体の上・側面はダークグリーン[23]とダークアース[22]の迷彩，下面はアヅールブルー[20]+[34]少量。

なお迷彩パターンは図②③の機体も，ほぼ同じである。

図②　第10空軍所属のP-40Eで，機体の上・側面はダークアース[22]とミドルストーンの迷彩，機体下面はアヅールブルー，機首のシャークの口は国籍マークと同じダークブルーとレッドの塗り分けとなっていて，垂直尾翼のショーベン小憎は白，国籍マークは左翼上面と右翼下面にある。

図③　これも同じ第10空軍所属のP-40Kで，塗装は図②の機体と同じダークアースとミドルストーンの迷彩，下面はアヅールブルーとなっている。キットの組立のとき，垂直尾翼前部へフインを追加して改造すればOK。

図④　RAAFのキテイホークMk.Iaで，機体の上・側面はダークアース[22]とダークグリーンの迷彩，下面はアヅールブルー，国籍マークは濃いブルーと白。スピナはスカイブルー[34]となっていて，機体の文字は白。なおこの機体にはアンテナ柱がないから組立のとき注意したい。

(K. Hashimoto)

P-40E　データ (P-40E technical data)

全幅(span)11.38m, 全長(length)9.68m, 全高(height)3.76m, 発動機(power plant)アリソン(Allison) V-1710-39(1,150HP)×1, 全備重量(gross weight) 4,160 kg, 最大速度(max. speed)530km/hr(高度6,070mにて), 実用上昇限度(service ceiling)8,850m, 航続距離(range)1,440km, 武装(armament)12.7mm×6, 乗員1名(crew 1)

This aircraft was one of the most popular fighters used by the Allied Forces during WWII. The P-40 made its initial flight in October 1938. A total of 13,738 planes were produced including the last model of this series, the P-40N. The P-40 is best-known as the airplane of Gen. Chennault's volunteer squadron, "Flying Tiger".

KIT:

Two types of P-40E models are now on sale in Revell's 1/32 series. One is with the Flying Tiger decal and the other includes an Aleutian Tiger decal. The former also includes Chinese Air Force markings as well as the U.S. Air Force's Flying Tiger symbol. The latter model kit is provided with the Canadian Air Force insinia.

Both kits are the same in composition and many major parts are movable. The engine, cockpit, rivetting and engraving are so elaborate that they make model kit fans imagine how the real aircraft looked like. The characteristics of the P-40 are faithfully rendered.

PAINTING:

Fig. 1. The top and sides of the plane are camouflaged with Revell Color (RC) 23, dark green, and RC-22, dark earth. The lower surfaces of the plane are RC-20 and RC-34, azure blue. The camouflage pattern is almost identical to those in Figs 2 and 3.

Fig. 2. This is a P-40E of the 10th Air Force. The top and sides of the plane are camouflaged with RC-22, dark earth and medium stone. The lower surfaces of the plane are azure blue. The shark teeth on the nose and the insignia are two-tone, dark blue and red. The blade on the tail is white. The insignia are on the upper surface of the left wing and lower surface of the right wing.

Fig. 3. The P-40K also belonged to the 10th Air Force. Like the P-40E in Fig. 2, it is camouflaged with dark earth and medium stone, and the lower surfaces with azure blue. The plane in Fig. 2 can be easily converted to a P-40K by adding a blade to the front of the vertical stabilizer.

Fig. 4. This is the Kittyhawk Mk-Ia. The top and sides of the fuselage are camouflaged with RC-22, dark earth and dark green. The lower surfaces are azure blue. The insignia are deep blue and white. The propeller is RC-34, sky blue. The letters on the fuselage are white. (Care should be taken during modeling because this model has no antenna pole.)

(K. Hashimoto)

P-40の塗装に必要なレベル・カラー	
①ホワイト	③レッド
⑧シルバー	⑳ライトブルー
㉑ミドルストーン	㉒ダークアース
㉓ダークグリーン	㉞スカイブルー
㉝黒つや消し	⑤ブルー



カーチスP-40N戦闘機 機首にワニロのマークを画いて中国戦線で抗日戦に活躍したおなじみのアメリカ義勇空軍フライング・タイガー部隊のP-40N。戦闘任務を終えて帰投，整備中のもので，ガソリン・トラックから給油中。なかにはドラム・カンから直接給油している機体もある。

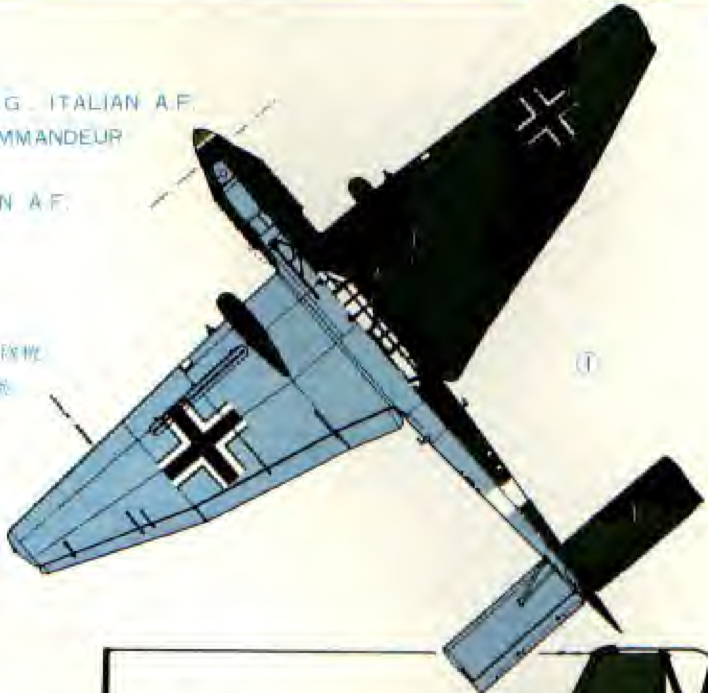


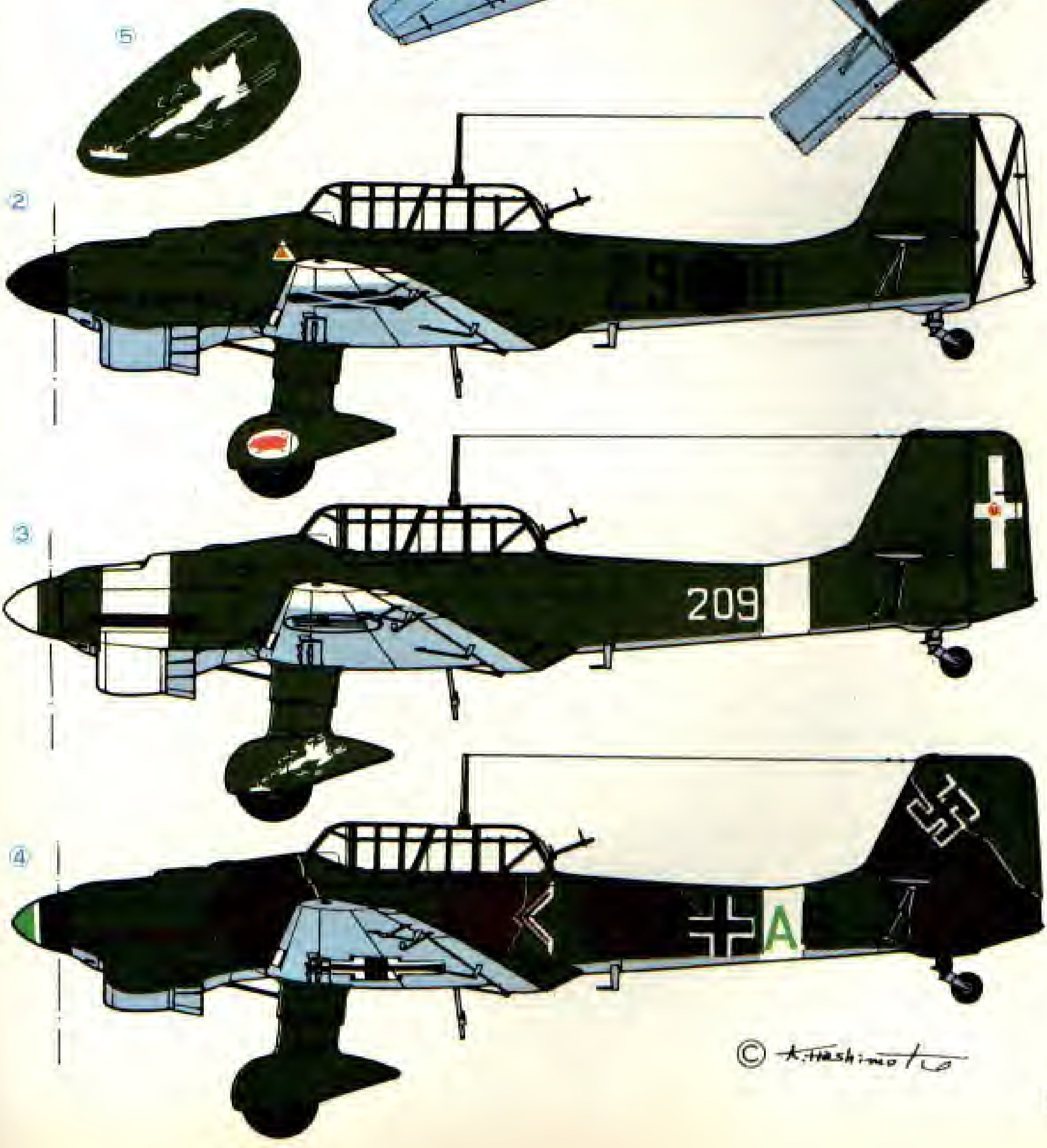
カーチスP-40　ウォーホーク

アメリカにいまなお健在で、エアレースや飛行ショーなどで飛びまわっているカーチスP-40。ウイスコンシン州ミルウォーキーのジル・レーシイ氏の所有機で、ネバダ州リノのエアレースに出場したときのスナップ。

① PLANE FIGURE OF 4 AIRDRAFT.
② Ju87B-1, CONDOR LEGION.
③ Ju87B-2, 209TH B. SQN., 97TH B.G., ITALIAN A.F.
④ Ju87R-2, FLOWN BY GRUPPEN KOMMANDEUR OF I ST.G.3.
⑤ INSIGNIA OF 97TH B.G. OF ITALIAN A.F.

① 図4の下面塗装図
② Ju87B-1"コンドル部隊"所属機
③ Ju87B-2 イタリー空軍第97爆撃大隊第209中隊機
④ Ju87R-2,第3急降下爆撃大隊第1中隊司令機
⑤ イタリー空軍第97爆撃大隊の部隊マーク







ユンカースJu87B-1急降下爆撃機　1938－40年頃の電撃作戦で活躍した当時のもので，機体上面ブラックグリーン，下面ライトブルー，主翼翼端に黄色の塗装で，ＲＬＭグレーに塗った爆弾を抱いている。

ユンカース　Ju87B　スツーカ

JUNKERS JU87B STUKA

第2次大戦の初期，ドイツ軍の電撃作戦の花形として活躍した代表的急降下爆撃機で，ドイツ軍の進撃するところスツーカあり，スツーカのあるところに必ず勝利あり，とまでいわれて，その猛威を発揮し，緒戦のドイツ軍の原動力となって活躍した。

☆キット紹介☆

数少いJu87Bスツーカのキットのうちで，決定版として定評のある1/32スケールのキットが，レベルから発売されている。1/32シリーズ中でも特に大型サイズのキットで，可動部はキャノピやプロペラ，車輪などであるが，詳細なコクピットや実感満点のエンジンを内蔵，精巧そのもののモールドの豪華版である。

付属デカールは最も派手な胴体全長にわたる図案化された蛇のマークのほか，合計3種が付属，大型カラー図と日本語の組立説明と塗装説明図もついている。

☆塗装について☆

図①は図④の機体の平面塗装で，胴体側面と翼上面はダークグリーン[17]とブラックグリーン[18]のスプリンタータイプ迷彩，下面はライトブルー[20]，スピナ先端とAの文字はライトグリーン，胴体の文字は黒となっている。

この機体はJu87R-2なので，Me109のキットの増槽を2個転用して両翼の爆弾架へセットするとOK。

図②　スペイン動乱で使用されたJu87B-1で，胴体の側面と翼上面はダークグリーン[17]の塗装，下面はライトブルー[20]，主翼翼端と方向舵は白[1]+[30]で方向舵には×印（黒[33]）があり，主翼の国籍マークは黒[33]の丸に白の×印がついている。主脚スパッツのマークは白でピンク（[1]+[3]少量）のPigの図案つき。

図③　イタリヤ空軍のJu87B-2で機体の上側面と翼上面がダークグリーン[17]，下面はライトブルー[20]の塗装，スピナ先端，カウリング，胴体および主翼翼端が白で，方向舵の白十字の中央にはイタリヤ空軍機のマークがあり，主翼の国籍マークは黒[33]。主脚には図⑤のマークが白で記入されている。　(K. Hashimoto)

Ju87B データ(Ju87B technical data)

全幅(span)13.8m，全長(length)11.1m，全高(height)3.9m，全備重量(gross weight)4,250kg，発動機(power plant)ユンカース・ユモ(Junkers Jumo)211Da(1,200HP)×1，最大速度(max. speed)387km/hr，実用上昇限度(service ceiling)8,000m，航続距離(range)560km，武装(armament)7.9mm×3，爆弾(bomb)500kgまたは280kg×1，50kg×4，乗員2名(crew 2)。

This is the representative dive bomber of the German Air Force during WWII. Called star of the "blitzkrieg" (lightning) tactics, the Stuka was all the time with the German Forces' onrush, bringing a victory to them. The Stuka was, so to speak, the driving force of the German Forces in the early stage of WWII.

KIT:

A Ju87B Stuka kit, very large in size, is now on sale from Revell's 1/32 series. Among other kits, this is known as the most excellent and dulex kits. The precise cockpit and engine are enough to make kit fans imagine how the real Stuka was. Movable are canopy, propeller and wheels. The kit is provided with three decals including a snake-design covering gaily all over the fuselage. A large color picture and modeling and painting insturctions in Japanese are with the kit.

PAINTING:

The sides of fuselage and the upper surfaces of wings are camouflaged in splinter-type painting with Revell Color (RC) 17, dark green, and RC-18, black green. The lower surfaces are RC-20, light blue. The spinner tip and the letter "A" are light green, while the letters on the fuselage are black. This plane is Ju87R-2, and kit fans can use two oil tank of the Me109 to make bombs on both wings.

Fig. 2. This is the Ju87B-1, which was used during the Spanish Conflict. The sides of fuselage and the upper surfaces of wings are RC-17, dark green. The lower surfaces of wings are RC-20, light blue. The wing tips and the rudder are RC-1 and 30, white. On the rudder is a mark of "X" in RC-33, black. The nationality mark on the wings is a white "X" mark in a RC-33 black-colored circle. Marks on the wing spats are white with a "pig" design in pink (RC-1 plus RC-3).

Fig. 3. This is the Ju87B-2 of the Italian Air Force. The top and sides of fuselage and the upper surfaces of wings are RC-17, dark green. The lower wing surfaces are RC-20, light blue. The spinner tip, cowling, fuselage and wing tips are white. In the center of white cross on the rudder is the insignia of the Italian Air Force. The nationality marks on the wings are RC-33, black. On the main props are white marks as shown in Fig. 5. (K. Hashimoto)

Ju87Bの塗装に必要なレベル・カラー	
①ホワイト	④イエロー
⑰ダークグリーン	⑱ブラックグリーン
⑳ライトブルー	㉚フラットベース
㉝黒つや消し	㉗イエローグリーン



ユンカースJu87B-1急降下爆撃機　1938～40年頃の電撃作戦で活躍した当時のもので，機体上面ブラックグリーン，下面ライトブルー，主翼翼端に黄色の塗装で，ＲＬＭグレーに塗った爆弾を抱いている。



ユンカースJu87D-4　スツーカ

イギリスに現存しているJu87D-4。飛行することはできないが、生き残っている数少ないスツーカの1機として貴重な存在。写真は映画"空軍大戦略"に出演したときのもので、お化粧直しもされて、塗装もま新しい。後方にブリストル・ボーファイターが見える

XT-2 ロールアウト







航空自衛隊の超音速戦闘機のパイロット訓練機として開発していた国産初の超音速高等練習機XT-2の試作1号機が完成、去る4月28日、三菱重工小牧工場でロールアウトした。

XT-2の開発は、三菱重工を主契約会社に、富士重工などが協力して43年度から細部設計に入り、44年度から強度試験機と試作1、2号機の製作にかかっていたもの。

強度試験機はこの4月に防衛庁技術研究本部に納入され、強度試験を実施中であり、今回ロールアウトした試作1号機は、ただちに機外の機能試験、地上滑走試験に入り、8月末までには初飛行の予定。小牧工場の格納庫では、試作2号機もすでに8分どおり完成しており、これも11月末までに社内飛行試験を終え、1号機とともに年内に防衛庁に納入され、岐阜基地で2年間にわたって実用試験が行なわれることになっている。計画どおり進めば、47年度に量産契約を行ない、XT-2は49年度から部隊に装備される。

前ページ、このページとも、三菱小牧工場を出た試作1号機。右ページ中は完成まぢかい試作2号機、下はハンガー内の1号機で、エリア・ルールを適用した胴長い特徴のある胴体、フルスパンにわたって付けられた主翼の前後縁フラップなどがよくわかる。

（本文記事参照）



ロールアウトしたXT-2 試作1号機



上2枚はすっきりしたタンデム複座の操縦席付近。下の写真では、デルタ主翼の前縁につけられたソーカットがよくわかる。









上は尾部のエンジン排気口付近。真中にアレスター・フックが装備されている。



上の2枚は主脚まわりと右側のエンジン空気取入口付近。主脚は90度ひねって前方の胴体両側面に格納される。主脚の後方に垂れ下って見える2枚はエアー・ブレーキ。エンジン空気取入口の空気調整ランプは固定式である。写真右は全遊動式の水平尾翼とUHFアンテナが付いた、大面積の垂直尾翼。尾部先端にはドラッグ・シュートが収められている。



ベトナム戦線の米軍機



東南アジア方面で使われている米軍機の最近のスナップをまとめて紹介することにしよう。

〔上〕タンソンニュートを基地に活躍しているF-4DファントムII、飛行中のレーンでロケット弾を発射した瞬間。

〔右〕同じく南ベトナムで対地攻撃に使われているA-37ドラゴンフライのナパーム弾投下。同機は南ベトナム空軍でも装備している。





〔左〕これも
南ベトナムの
対ゲリラ作戦
で活躍中のB
-57キャンベラ
この機体は南
ベトナムのフ
ァンラン基地
に駐留してい
る第35戦術戦
闘航空団第8戦
術爆撃飛行隊
の所属機。





このページは、ベトナムの対ゲリラ作戦では今なお重用されているF-100Dスーパーセイバー。上は2.75インチのスニオ・ロケット弾を発射したところ。中の機体はビエンホア基地の第3戦術戦闘連隊第90戦術戦闘飛行隊の所属機。下の写真はフーキャット基地の第37戦術戦闘連隊第612戦術戦闘飛行隊の所属機である。







〔上〕7.62mmのミニガンを装
備したC-119のガンシップA
C-119スティンガー。第18特
殊作戦飛行隊の所属機で、メ
コンデルタ地方をパトロール
中のもの。
〔左〕同じく7.62mmミニガン
を装備したハーキュリーズの
ガンシップAC-130。写真は
左側胴体から突き出されたミ
ニガンの銃身。AC-130はA
C-119、AC-47などとともに
ホーチミン・ルート遮断作戦
などに大いに使われている。
〔下〕投降を呼びかけるパン
フレットを投下中のC-47 ス
カイトレン。ダナン基地の第
9特殊作戦飛行隊の所属機。





〔上・下〕前線と後方基地間の補給物資や兵員の輸送に活躍しているC-130ハーキュリーズ。無舗装の粗末な滑走路でも容易に離着陸できるハーキュリースは、ベトナム作戦遂行上の貴重なアシである。



〔下〕ベトナム戦で救難任務に活躍しているHH-53スーパージョリイグリーン ヘリコプタ。長大な航続力を生かして、南進する兵員の輸送や北ベトナムに不時着したパイロットの救出などにも出動している。




ID

三沢基地のファントムII



かつてファントムの三つの飛行隊が駐留して活況をていしていた米空軍三沢基地も、そのほとんどが海外の基地に移動して、いまでは、またそのまま残されている整備施設にオーバーホールや修理のために飛来する数機が見られるのみ。

ここの2枚の写真は、つい最近同基地で撮影したF-4Dの1機のダイナミックな離陸。韓国の群山基地の第3戦術戦闘連隊に編入された機体で、整備を終えて同基地に向うもの。

フォート



フランスの可変翼研究機ミラージュGを単座にしたG8の1号機が完成、5月8日、イーストル飛行場で初飛行に成功した
初飛行は、主翼を展張したまま約1時間にわたって行なわれ、ギア、フラップ、エアブレーキなどの操作テストを行ない、



ニュース



最大370ノット（マッハ0.73）、最小 160ノットで飛行したという。初飛行ではSNECMAアター9 K50エンジン2基を装備していたが、将来はK53エンジンを積む予定で、マッハ 2.5の高速戦闘機を狙っている。







〔上〕イタリアのマッキーMB.326
機にとうとう単座の攻撃型が出現した
その名をMB.326Kといい、去年の
実物が完成したが、とても練習機の
とは思えないような出来ばえ。
胴体下面の両側には30mm機関砲を
ずつ固定し、翼下面の6つの弾架に
弾やロケット弾などをたくさん積め
パイロットの前後には防弾鋼板が張
ぐらされ、ゲリラ戦に万全の備えを
ている。
〔左〕YF-5B-21の原型機と新鋭の
E製J85-GE-21ターボジェット。
原型はF-5E国際戦闘機のエンジンを
ストするため、空気吸入口を大きく
胴体側面に補助空気吸入口ドアが設
れるなどの改造が施されている。J
GE-21は、F-5Bに装備されてい
13より推力が23%もふえて,2,265kgと
っている。写真でわかるように、非
小型で軽量なのが特徴で、F-5Eには
れが2基、胴体後部に取付けられる。
〔下〕西ドイツのコンドル航空が5月
日からチャーター便に投入するボー
グ 747B。コンドル航空は西ドイツ
のチャーター専門会社で、ルフトハン
の子会社。747のB型を実際に運航する
は、同航空が最初である。





製作が開始されたF-4EJ



いまアメリカで実用テストが行なわれている航空自衛隊のF-4EJファントムIIの第1、2号機は、8月上旬に小牧まで空輸されることになっているが、ノックダウンで運ばれて組み立てられる3、4号機も、すでに三菱重工小牧工場に運び込まれて製作が進められている。写真上と下は3号機の機首レドームと胴体中央部、右は4号機の胴体。





スナップ だより



（上）4月初め、ベトナ
り岩国基地へ飛来したH
8Cヘリコプタ。大型増
けて海を越えてきたもの
本機が日本に飛来したの
これが初めてである。（岩
・堀江康太）。

（左）これは迷彩したフ
ス空軍のC-160ハーキュ
ズ。4月上旬、横田基地
来したもの（東京都・横
塚）。

（右）4月11日、エンジントラブルのため大阪空港に緊急着陸した米陸軍のU-21、同日夕方、修理を終えて同空港を離陸。全面オリーブドラブの塗装で、胴体中央部に国籍マークを画いている（吹田市・藤平一）。

（下）中華航空の新鋭機カラベルVI-R。4月下旬からB 727、B 707に代って大阪に就航するようになった（川西市・渕上尭卯）。





ムスタングのトリプル・エース





G.M.グラハム中将のアルバムから……

（本文記事参照）



［前ページ］愛機P-51Dの前に立つグラハム中将（右）。当時少佐で，第355戦闘大隊第354戦闘中隊長，1945年1月の撮影。右上も同じく第354戦闘中隊長当時のグラハム少佐で，戦闘出撃の完全装備をしてのスナップ。1944年12月の撮影。



府中基地の在日米軍司令官兼第5空軍司令官の要職にあるゴードンM. グラハム中将は、2次大戦中、P-51ムスタングを駆ってヨーロッパ戦線で活躍したアメリカ空軍のエースの一人。

1944年8月に、在欧の第8空軍第355戦闘大隊に配属されて以来、第354戦闘中隊長、第361戦闘大隊第374戦闘中隊長、さらに第361 戦闘大隊長として、終始ムスタングで戦いぬき、戦闘出撃回数73回、撃墜機16機半の戦果をあげたいわゆるトリプル・エースである。

そのアルバムを拝借して、当時の活躍ぶりをのぞかせてもらうことにしよう。



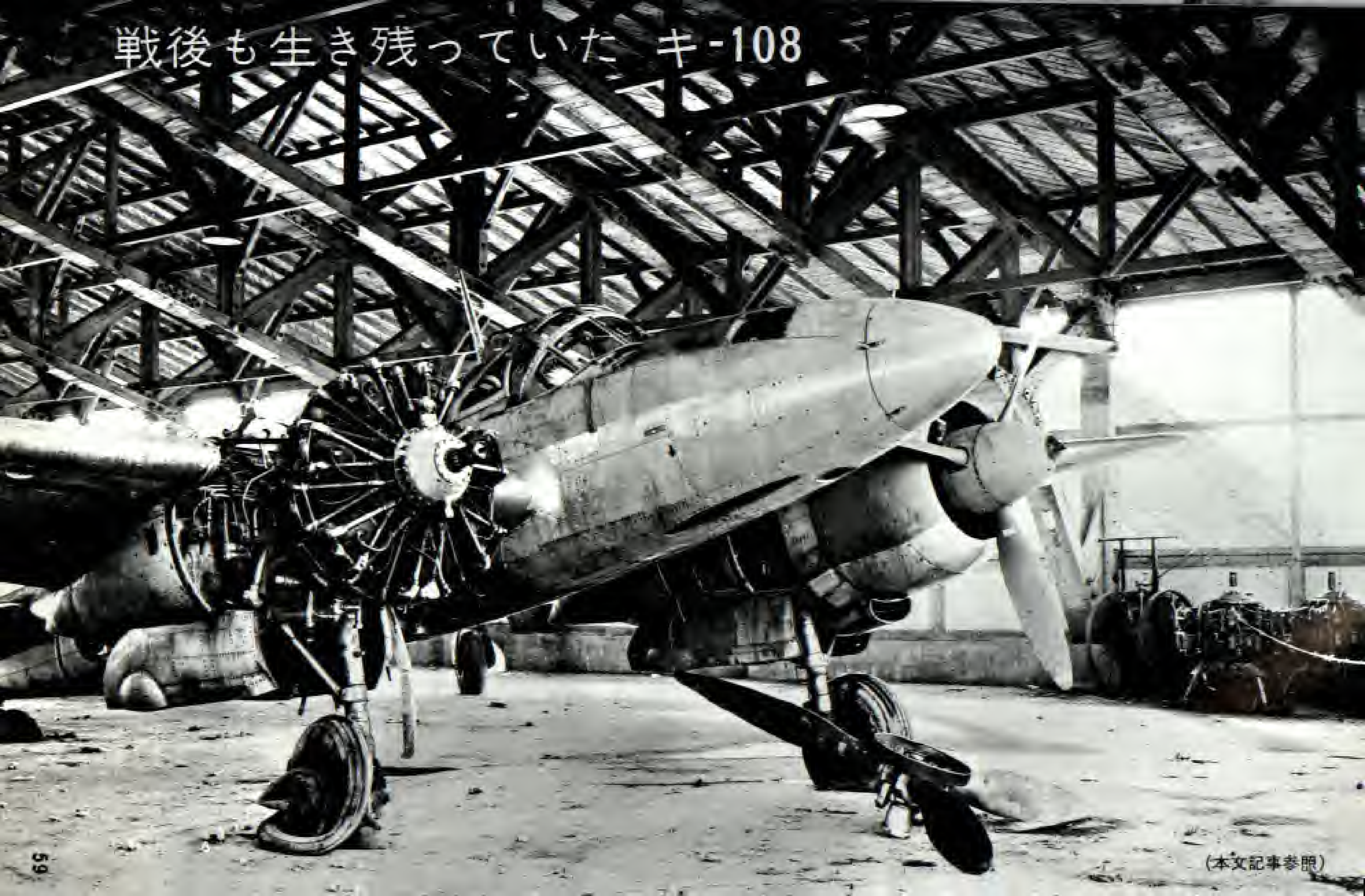
〔前ページ上〕第354戦闘中隊の隊員たちとともに。前列中央が隊長のグラハム中佐。1945年4月、イギリスにて。〔前ページ下〕いざ出撃。機上のグラハム少佐。1944年春。
〔上〕グラハム少佐が第354戦闘中隊中隊長として1944年春から45年初めにかけて乗りまわしたP-51D。戦闘出撃に順調スタート。〔下〕愛機の前でポーズをとるグラハム少佐（右）。操縦席わきの撃墜機マークもどんどん数が増えて行った頃。1945年1月。





（上）1945年4月，第354戦闘中隊長グラハム中佐。もうすでにこの頃はトリプル・エース。中佐はこの後まもなく第361戦闘大隊に移って，第374戦闘中隊中隊長となった。愛機ムスタングは排気管カバーをはずしているのに注意。機体の塗装については折り込みカラー図参照。
（下）2次大戦も終末を告げた1945年12月，イギリスのステープル・モードン飛行場にて。この頃グラハム中佐は第361戦闘大隊大隊長から第8戦闘機団作戦部参謀に代っている。





戦後も生き残っていた キ-108

(本文記事参照)



大戦末期、超高空を進入するB-29の迎撃用として試作された川崎キ-108。キ-102戦闘機を母体にして、まゆ型の気密室をそなえた本格的な高々度戦闘機をめざすものであったが、時すでに遅く、4機の試作機が造られ、気密室のテストを行なっただけで終戦を迎えることになった。

ところでその試作機の行方であるが、これまで爆撃や焼却で、終戦時には1機もなくなっていたと伝えられたいた試作機4機のうち、その1号機は、終戦と同時に進駐してきた米軍にろ獲され、徹底的な調査が行なわれていることが、このほど明らかになった。今回ここに掲載した写真は、その調査報告書に添付された写真の一部で、これまで不明な点の多かったキ



-108を解明する貴重な資料である。

〔前ページ・上とも〕川崎航空機の岐阜工場に放置されているキ-108　1号機。右側エンジンはカバーをはずし、プロペラも取り去っている。機体はキ-102の7号機で、操縦席にまゆ型の気密室を装置したほかは、高々度戦闘機としてエンジンその他特別の改造はされていなく、排気タービンなども付けられていない。垂直尾翼に薄く見える"7"は、キ-102の7号機を示すものであろうか。胴体には、米軍の手によって"こわすな"などと英語で書かれている。この1号機は、調査を終ったのちは破壊してしまったという。





〔上・下〕高さ1.75m、直径0.9mのま
ゆ型の筒がキ-108の気密室であった。写
真はその気密室のクローズアップで、上
の写真は気密室の扉が開かれ、下の写真
では閉じられている。気密室の透明風防
部分は2重ガラスで、両ガラスの間は真
空になっており、室内は飛行中もエンジ
ン音やプロペラ音がほとんど聞きとれな
いほど静かだったという。気密室は、1
万mで3000mの気圧を保てるように設計
されていた。
〔左〕リベットの荒さが目立つエンジン
後部ナセル。この部分はキ-102とほとん
ど変りない。



未発表海軍機写真集



愛知　96式艦上爆撃機（Ｄ１Ａ２）



AICHI TYPE 96 CARRIER DIVE-BOMBER (D1A2)

愛知96式艦上爆撃機は、複葉の複座艦爆。昭和11年11月に制式採用となって以来、昭和15年の生産終了までに、420機が作られている。日華事変では急降下爆撃機の主力として活躍。飛行特性、爆撃性能、航続力等、複葉の艦爆としては世界一流の水準にあった。

大戦中は99艦爆に主力の座をあけわたすことになるが、一部は練習爆撃機として改めて採用され、大戦中も使われている。

63ページからこのページは全盛の頃の96艦爆で、すべて上側面を暗緑色のいわゆる日本海軍機色、下面が明灰白色のツートーンカラー迷彩。尾翼に3本の線が見えるのは編隊の指揮官機。いずれも空母"賀加"に配属されていた部隊のものと思われる。





空技廠　93式中間練習機（K5Y1）



このページは昭和10年ころから終戦まで広く使われた海軍の代表的な練習機、93式中間練習機。"赤とんぼ"の名で一般にも良く知られていた同機は、当時の大空を志す青少年のアイドルでもあった。昭和9年から終戦まで5,500機が生産されている。

写真の機体は霞ケ浦航空隊の所属機で、機体全面黄橙色、尾翼は赤の塗装。

KOGISHO TYPE 93 ADVANCED TRAINER (K5Y1)



鹵獲された日本の軍用機《その13》



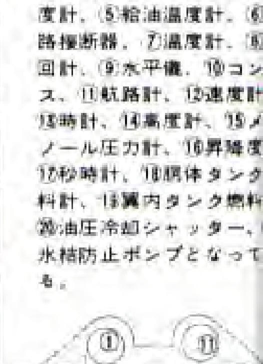
厚木基地で米軍に鹵獲された雷電21型。いずれもプロペラをはずしただけで、まだ完全な状態である。各機ともこの後間もなく焼却されたものと思われる。終戦2週間後の1945年8月28日の撮影

CAPTURED JAPANESE MILITARY AIRCRAFT DURING WWII





〔上・左〕立川の昭和飛
機でろ獲された紫電改。
はその操縦席計器板。同
は量産のサンプルとして
び込まれていたもの。19
年 9 月21日の撮影。
計器パネルは、①排気
度計、②回転速度計、③
入圧力計、④シリンダー
度計、⑤給油温度計、⑥
路接断器、⑦温度計、⑧
回計、⑨水平儀、⑩コン
ス、⑪航路計、⑫速度計
⑬時計、⑭高度計、⑮メ
ノール圧力計、⑯昇降度
⑰秒時計、⑱胴体タンク
料計、⑲翼内タンク燃料
⑳油圧冷却シャッター、
氷結防止ポンプとなって
る。





〔上〕プロペラをはずされて、三沢基地のエプロンに整列させられた海軍の艦爆彗星。手前の1機は熱田32型エンジンを付け、操縦席前面の風防を平板の防弾ガラスにした彗星12型。2機、3機目は彗星11型、4機目以降は空冷の金星エンジンに代えた33型である。1945年9月13日の撮影。

〔下〕同じく三沢基地で武装解除された99艦爆22型。1945年10月20日の撮影。温存のために本州の北方の基地に移された海軍の虎の子艦爆も、こうして終戦と同時に、無傷のまま連合軍の手におちている。





〔上〕破壊されて厚木基地の原っぱに積み上げられた海軍機。96陸攻、月光などの残骸が見える。1945年9月21日の撮影。
〔下〕これも厚木基地で焼却寸前の海軍機。左端と右端に見える双発機は銀河爆撃機。左から2機目の双発機は夜戦型の極光と思われる。ほかに零戦などの単発戦闘機もそちこちに横たわっている。1945年8月29日の撮影。





エアラインの翼

ルフトハンザ　ドイツ航空③

（上）1933年から開始されたスピードサービス（急行旅客便）に使用されたユンカースJu 60。Ju 60は、波型外板と箱型胴体から脱皮した、後方引込脚の初めての近代的でスマートな機体。のちに改良されてJu 160となって広く使われている。

下の2枚は現用機で、上は1964年からヨーロッパの各都市間に就航しているボーイング727、下は1969年から使っているボーイング737。



以上、ルフトハンザ　ドイツ航空の主なる使用機を3回にわたって紹介したが最後に、同社の現用機を列挙することにしよう。

ボーイング747-100　3機、ボーイング707　19機（うち-420　4機、-320B　11機、-320C　5機）、ボーイング727　11機、同727C　11機、同737-100　20機、同737-200C　4機、バイカウント814　3機。



ユンカース　Ju87B　スツーカ

JUNKERS JU87B STUKA

第２次大戦の初期，ドイツ軍の電撃作戦の花形として活躍した代表的急降下爆撃機で，ドイツ軍の進撃するところスツーカあり，スツーカのあるところに必ず勝利あり，とまでいわれて，その猛威を発揮し，緒戦のドイツ軍の原動力となって活躍した。

☆キット紹介☆

数少いJu87Bスツーカのキットのうちで，決定版として定評のある1/32スケールのキットが，レベルから発売されている。1/32シリーズ中でも特に大型サイズのキットで，可動部はキャノピやプロペラ，車輪などであるが，詳細なコクピットや実感満点のエンジンを内蔵，精巧そのもののモールドの豪華版である。

付属デカールは最も派手な胴体全長にわたる図案化された蛇のマークのほか，合計３種が付属，大型カラー図と日本語の組立説明と塗装説明図もついている。

☆塗装について☆

図①は図④の機体の平面塗装で，胴体側面と翼上面はダークグリーン[17]とブラックグリーン[18]のスプリンタータイプ迷彩，下面はライトブルー[20]，スピナ先端とＡの文字はライトグリーン，胴体の文字は黒となっている。

この機体はJu87R-2なので，Me109のキットの増槽を２個転用して両翼の爆弾架へセットするとOK。

図②　スペイン動乱で使用されたJu87B-1で，胴体の側面と翼上面はダークグリーン[17]の塗装，下面はライトブルー[20]，主翼翼端と方向舵は白[1]・[30]で方向舵には×印（黒[33]）があり，主翼の国籍マークは黒[33]の丸に白の×印がついている。主脚スパッツのマークは白でピンク（[1]＋[3]少量）のPigの図案つき。

図③　イタリヤ空軍のJu87B-2で機体の上側面と翼上面がダークグリーン[17]，下面はライトブルー[20]の塗装，スピナ先端，カウリング，胴体および主翼翼端が白で，方向舵の白十字の中央にはイタリヤ空軍機のマークがあり，主翼の国籍マークは黒[33]。主脚には図⑤のマークが白で記入されている。　(K. Hashimoto)

Ju87B データ(Ju87B technical data)

全幅(span)13.8m，全長(length)11.1m，全高(height)3.9m，全備重量 (gross weight) 4,250kg，発動機 (power plant) ユンカース・ユモ (Junkers Jumo) 211Da(1,200HP)×1，最大速度(max. speed)387km/hr，実用上昇限度(service ceiling)8,000m，航続距離(range) 560km，武装(armament)7.9mm×3，爆弾(bomb) 500kgまたは280kg×1，50kg×4，乗員２名(crew 2)。

This is the representative dive bomber of the German Air Force during WWII. Called star of the "blitzkrieg" (lightning) tactics, the Stuka was all the time with the German Forces' onrush, bringing a victory to them. The Stuka was, so to speak, the driving force of the German Forces in the early stage of WWII.

KIT:

A Ju87B Stuka kit, very large in size, is now on sale from Revell's 1/32 series. Among other kits, this is known as the most excellent and dulex kits. The precise cockpit and engine are enough to make kit fans imagine how the real Stuka was. Movable are canopy, propeller and wheels. The kit is provided with three decals including a snake-design covering gaily all over the fuselage. A large color picture and modeling and painting insturctions in Japanese are with the kit.

PAINTING:

The sides of fuselage and the upper surfaces of wings are camouflaged in splinter-type painting with Revell Color (RC) 17, dark green, and RC-18, black green. The lower surfaces are RC-20, light blue. The spinner tip and the letter "A" are light green, while the letters on the fuselage are black. This plane is Ju87R-2, and kit fans can use two oil tank of the Me109 to make bombs on both wings.

Fig. 2. This is the Ju87B-1, which was used during the Spanish Conflict. The sides of fuselage and the upper surfaces of wings are RC-17, dark green. The lower surfaces of wings are RC-20, light blue. The wing tips and the rudder are RC-1 and 30, white. On the rudder is a mark of "X" in RC-33, black. The nationality mark on the wings is a white "X" mark in a RC-33 black-colored circle. Marks on the wing spats are white with a "pig" design in pink (RC-1 plus RC-3).

Fig. 3. This is the Ju87B-2 of the Italian Air Force. The top and sides of fuselage and the upper surfaces of wings are RC-17, dark green. The lower wing surfaces are RC-20, light blue. The spinner tip, cowling, fuselage and wing tips are white. In the center of white cross on the rudder is the insignia of the Italian Air Force. The nationality marks on the wings are RC-33, black. On the main props are white marks as shown in Fig. 5. (K. Hashimoto)

Ju87Bの塗装に必要なレベル・カラー

①ホワイト	④イエロー
⑰ダークグリーン	⑱ブラックグリーン
⑳ライトブルー	㊿フラットベース
㉝黒つや消し	㉗イエローグリーン





